

川谷淳子 氏の学位論文審査の要旨

論文題目

小児慢性疲労症候群における疲労と認知障害に関する研究
(Preliminary evidence for cognitive dysfunction and mental fatigue in childhood chronic fatigue syndrome)

わが国で問題となっている不登校児童生徒では小児慢性疲労症候群(以下 CCFS)の診断基準を満たす例が一部含まれている。CCFS はさまざまな環境要因と遺伝的要因が背景となり神経・内分泌、免疫系の相関の変調を引き起こすホメオスタシスの低下現象によって引き起こされると考えられている。本申請者は CCFS に対する早期介入・早期治療の方法を検討する目的で、本症候群における疲労、認知機能、睡眠覚醒リズムの評価を行った。

臨床的評価では、質問紙による疲労および意欲低下の評価と、非侵襲的脳機能計測の一種である modified trail making test (mATMT)を用いておこなった。その結果、CCFS 患者では内発的な意欲の低下が明らかになり、努力報酬比の不均衡が認められた。また睡眠覚醒リズムの異常、身体活動量の低下、注意転換機能の低下 (mATMT による) が認められた。さらに mATMT により 6 ヶ月後に再評価した注意転換機能は、精神疲労症状の改善に伴って改善していることが確認された。このことから注意転換機能の低下は可逆的な機能異常であることが判明した。これらの検討の結果、CCFS の臨床的評価における mATMT の有用性も示すことができた。これらの研究から申請者は慢性疲労症候群における臨床的介入の方策として睡眠覚醒リズムの正常化、薬物治療、認知行動療法を行うことを提唱している。

質疑では CCFS の診断基準、発生状況について多くの質問と疑問が提出された。また本研究の進め方について対象者のサイズ、対照群の選択などについても質問がなされた。申請者からはおおむね適切な回答が得られた。本研究は慢性疲労症候群における客観的な評価方法を探索する上で重要な所見を提供し臨床的な介入の根拠を示唆するものとして評価され学位を授与するに値すると判断した。

審査委員長 小児科学担当教授

齋藤文夫

審査結果

学位申請者名：川谷 淳子

分野名またはコース名：小児発達社会学

学位論文題名：小児慢性疲労症候群における疲労と認知障害に関する研究
(Preliminary evidence for cognitive dysfunction and mental fatigue
in childhood chronic fatigue syndrome)

指導： 友田 明美 准教授

判定結果：

可

不可

不可の場合：本学位論文名での再審査

可

不可

平成23年2月7日

審査委員長 小児科学担当教授

遠藤 文夫

審査委員 神経精神科学担当教授

池田 亨

審査委員 知覚生理学担当教授

宋 文杰

審査委員 公衆衛生・医療科学担当教授

加藤 貴彦